

令和6年度 取組目標 通年評価

1 校務分掌

4:よくできた 3:まあまあできた 2:あまりできなかった 1:できなかった

分掌名	実践目標	具体的な取組み方法	評価	1年間の反省・課題	次年度の具体的な取組み目標
教務	①校務支援システムの活用	・校務支援システムの運用をよりスムーズに行い、効果的な活用ができるよう、各種証明書類の発行等も含めマニュアル整備などを行い、職員のサポートを行う。	4	効果的に活用できたと考える。情報担当者が組織的に対応しており、職員のサポートも迅速に行えた。この体制が引き続き確保できるよう努めたい。	その他の校務についてもDX化を進め、教員の負担を軽減していきたい。
	②読書活動の推進	・「朝の読書」活動を中心とした読書活動を推進し、生徒の図書室利用度を向上させる。	4	各クラスに学級文庫を配置し、「朝の読書」をほぼ毎日実施することができた。図書室の利用人数が増えるような工夫を今後行っていきたい。	次年度も引き続き取り組んでいく。
	③積極的な学校行事等の情報提供	・学校行事や式典、表彰等について、速やかに報道提供を行う。 ・ICTの積極的な活用を目指す。 ・ホームページを活用した情報発信を充実させる。 ・メール配信を積極的に活用し、必要な情報を家庭に迅速に伝える。	4	一昨年より全職員にHP更新の権限を与え、いつでも更新できるように取り組んでいる。学校行事等の各担当が積極的に情報発信ができた。毎日約200件のアクセスがあり、多い時には1日1000件のアクセスがあった。	他の媒体をからHPに誘導するような仕組みを作っていきたい。 リソースは限られているので、なんでも情報を発信するのではなく、情報の精査や、ターゲットを絞った効果的な情報発信に努めたい。
	④一人一人の教員の授業のスキルアップを図る。	・ICT教材活用実践授業や授業参観を行う。 ・年2回授業評価を行い、次年度への課題発見および解決等につなげる。	4	情報担当が毎学期に研修会を開いており、ICT機器の活用に向けて取り組んでいる。授業評価においてもタブレット端末を用いて行っている職員もいる。	端末の更新が進められ、性能や使いやすさも上がってくると考えられるので、積極的に活用していきたい。
	⑤生徒主体の授業の実践	・教材等や授業展開を工夫することによって、生徒に関心を持たせ、活発かつ円滑な生徒主体の授業（アクティブラーニング）の実現を目指す。	3	来年度より、自前の端末を持った生徒が入学してくるため、ICT機器を積極的に活用している職員が増えている。	引き続き、興味関心を高める工夫に取り組み、生徒の知識・技能の定着について考えていきたい。

分掌名	実践目標	具体的な取り組み方法	評価	1年間の反省・課題	次年度の具体的な取り組み目標
進路指導	「希望進路の実現・進路意識の高揚」に向けて以下の項目について実践する。				
	①求人確保	・可能な範囲で企業訪問を行い、求人の確保に努める。	4	ジョブサポートティーチャーを中心に企業訪問を実施し、卒業生の定着率の確認や求人の開拓を行った。	次年度もジョブサポートティーチャーを中心に積極的に企業訪問を実施し、職場定着を促すとともに求人開拓に努める。
	②各種のガイダンスやHR活動(進路指導関係)の充実	・大学説明会、卒業生講話など各種のガイダンスを計画・実施する。また、生徒の実態にあわせて情報の質・量を精査し、本校生にとってより有効な情報提供をHR活動等を通じて行う。	4	進路オリエンテーションや卒業生を招いての講話、PTAでの保護者対象の講話、ハローワークの求職者専門相談員を招いての講演、就職希望者・進学希望者への準備講習などを計画的に実施した。	就職ではジョブサポートティーチャー、ハローワーク、OB、進学では大学・短大・専門学校等と協力し、各種ガイダンスを実施し、生徒の進路意識向上に努めたい。また、幅広い進路を希望した生徒に対し、個に応じた情報提供に努める。
	③入試・入社試験対策および面接指導の充実	・進学課外や適性検査対策問題集の学習を通して、入試・入社試験に向けての学力を高める。また、面接対策講座を実施し、その後、複数の教職員で面接練習を実施する。	3	3年Bコースで進学から就職へと進路を変更する生徒が多数出て、進学コースの意味合いが薄れてしまった。進学課外、適性検査対策問題集の学習は計画通りに実施できた。	次年度も朝読の時間や放課後の課外を通して入試・適性検査対策を実施するとともに、面接カードを利用して面接指導の充実に努める。
生徒指導	①『挨拶の励行・服装の整備・時間を守る・清掃をきちんとする』等、基本的生活習慣に対する意識の徹底と確立を図る。	・朝の校門指導を継続して行い、挨拶・遅刻・服装についての指導を行う。教員も積極的に声かけを行う。	2	頭髪、服装の不備のある生徒が一部みられる。指導すれば素直に応じるので継続して指導していきたい。	そろそろ男子の頭髪(ツープロック)指導を厳格にするのに限界がきているような気がする。他校や、近隣の中学校でも頭髪指導にむらがあり様子を見ながら検討したい。
	②生徒が安全で安心して学べる学校であること。そして、地域の人々からも信頼される学校であるように努めていく。	・いじめや盗難が発生しないように学年団・担任・教育相談部等と連携を図り、未然防止に努める。特にいじめに関しては初期対応に気を付けたい。	2	いじめ、生徒間のトラブルが数件発覚した。対応はしているが今後も継続して経過を注視していかなければいけない状況である。	いじめ問題に対して注意して対応していたが、なかなか思うようにいかないことが多かった。今後もより教員間の情報交換、および正確な記録などについて入念に気を配りたい。
	③道徳教育を継続し、相手を思いやる気持ちや感謝する気持ちが育めるよう努めていく。	・各種講演会・安全教室を実施し、思いやりの心を育てることと、自己管理能力を向上させる。	4	講演は予定通り開催することができ、有意義な話を聞いた。	例年通り実施したい。

分掌名	実践目標	具体的な取り組み方法	評価	1年間の反省・課題	次年度の具体的な取り組み目標
人権・同和教育	①生徒の人権感覚を高め、人権課題を主体的に解決していく姿勢を養う。	・（生徒）生徒の感性に訴えるような人権・同和教育ホームルームの教材の作成・内容の更新を行う。人権だよりを発行して、人権意識を高める。	4	各学年の担当教員が、分担して指導案づくりに取り組んだ。それを基に各担任がクラスの実情に応じてアレンジを加え、人権・同和教育ホームルームを70分で行った。ホームルームで作成した人権詩を東かがわ市人権作品展に応募し、最優秀賞、優秀賞をいただいた。「人権だより」を発行し、文化祭では人権と学校の歴史について人権展を行った。	参加体験型のホームルームを実施して好評であったので今後も続けていく。また、文化祭で人権展を出品し、さまざまな人権課題について学校内外の人へ発信をしていく。
	②教職員の人権に関する知的理解を深めるとともに、人権感覚を養う。	・（教職員）研究会・現地研修会等の案内を積極的に行い、参加を呼びかける。新転任者や経年経験者研修対象者への研修や、全員を対象とした定期的な研修の実施を行い、人権感覚の養成を図る。第三次取りまとめを参考にして、各教科の授業において人権教育的な視点を取り入れる。	4	現地研修を石田高校と合同で開催し、特に問題となっているインターネット上の差別問題について学ぶことができた。	今後も職員に積極的に研修会への参加を促していく。現地研修会を実施して、差別から深く学ぶ機会を提供していく。職員版「人権だより」に時事をとらえた情報を掲載していく。
	③保護者に対する啓発を積極的に行う。	・（保護者）人権だよりを通して、人権啓発を行う。PTA総会で人権講話を行う。研究会・研修会等の案内を積極的に行い、参加を呼びかける。	3	保護者向け人権だよりを発行した。PTA総会での講話を行った。	研修会への参加を呼びかけていく。
特別活動	様々な学校行事（集団活動）、部活動を通じて、未来を支える健康・体力・コミュニケーション力を伸長させるとともに規範意識・礼節をわきまえた社会に貢献できる人材育成を図る。	・部活動を通しての人間形成と各種大会での上位入賞 部活動での地域貢献活動や、各種大会で上位入賞できるよう指導する。	4	県総体では、柔道部に加え、バレーボール部やソフトテニス部が四国大会に出場することができた。 サッカー部においても1部残留をすることができた。	次年度においても、各部活動に継続して活躍してほしい。
		・様々な行事に生徒一人ひとりが主体的に参加 体育祭や志度高祭、クラスマッチ等の学校行事において、工夫した企画・運営や、行事において全校生が一致団結・協力し、計画・運営・活動ができるよう指導・サポートする。	4	体育祭において、学科対抗競技を新たな試みとして導入し、学科としてのつながり意識を強化した。 志度高祭において、全員壁画を実施。各自が積極的に参加でき、準備等においてクラスが団結した。 クラスマッチ委員、体育祭実行委員を新たに設け、生徒全員が準備から関われるようにした。	次年度も引き続き取り組んでいく。新たな試みができるようであれば、新規に検討していきたいと考える。
		・ボランティア活動に自主的に参加できる生徒の育成 ボランティア活動を積極的に推進し、自主的に参加する気持ちを養う。 各クラスにおけるのホームルーム活動時地域清掃活動の取り組み。 各部活動において、地域清掃やボランティアなどの地域貢献の取り組み。	3	クラスでの地域清掃については、全クラスが実施できた。その結果、香川県道路協会より功労者表彰された。 吹奏楽部や新体操・ダンス部、サッカー部などが地域の祭りなどにおいて、ステージ披露や補助を行った。	次年度においても、地域清掃をはじめとする活動を通して、ボランティア意識を育成していこうと考える。

分掌名	実践目標	具体的な取組み方法	評価	1年間の反省・課題	次年度の具体的な取組み目標
保健・教育相談	生徒や職員の健康に配慮し、元気で活気のある学校づくりを目指す。 新型コロナウイルス感染症、インフルエンザなどの感染症の予防を継続していく。また、熱中症の予防にも努める。	・4～6月、生徒の定期健康診断を行う。 ・各学年において正しい知識を理解させ、関心と責任を持たせる。（講習会等の実施） ・新型コロナウイルス感染症、インフルエンザの予防（検温、手洗い、うがい、手指消毒、喚気等） ・熱中症の予防注意喚起を行う。	4	生徒の健康診断は、計画通り実施できた。保健便りを毎月発行し、生徒の健康意識を高められている。また、全生徒を対象とした性教育、睡眠について、学年ごとの講演会などを実施した。生徒の感想から真剣に自分のこととして捉え考えている様子もうかがえた。感染症で数人が感染し欠席をしていたが、学級閉鎖には至っていない。	次年度も計画的に健康診断を実施する。保健便りや学年に応じた健康課題の講習会を開き、生徒の保健（健康）に関する知識や意識を高めていく。
		職員の体力・健康維持に努める。職員健康診断の実施	3	職員の健康診断を実施。ヘルスアップセミナーを実施したが、参加が少なかった。	次年度も引き続き、職員の健康診断を実施。ヘルスアップセミナー等の参加を呼びかける。
	関係者間の連携を密にして、生徒・保護者および問題を持つ生徒に関わる教員のサポートを行う。	担任・生徒に関わりのある教職員・保護者・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー間の連携を密にして、学校内外の情報収集・共有に努め、連携してサポートを行う。	4	入学前の相談希望者には、春休み中や入学式当日までにすべて調整し実施できた。必要と認める生徒には、スクールカウンセラーにも同席してもらった。またスクールカウンセリングには、担任の先生を通して予約確認をし、その後の対応協議もすることで、情報共有を行うことができた。スクールソーシャルワーカーも活用できた。	事前面談を申し出た生徒は、比較的順調に学校生活になじめていることから、入学前アンケートは引き続き実施していく。
	相談しやすい雰囲気づくりを心がける。	教育相談だよりを発行し、スクールカウンセラー来校の日程等を伝える。学校生活アンケートを実施し、見守りや面談が必要な生徒をピックアップする。	4	教育相談だよりをこれまでに2回発行できた。学校生活アンケートも夏休み明けに実施し、気になる内容については担任と共有できた。	相談だよりは各学期とも発行したい。必要があればアンケートを実施し、悩みを持つ生徒の把握に努める。
総務	①保護者(PTA)および地域、同窓会との円滑な関係を維持し、教育諸活動において多面的な協力を得られるよう発信する。	・関係各位に学校行事等の通知と積極的参加を呼びかける。	4	100周年記念式典は同窓会の方の意見も多数いただいて盛大に開催できた。PTA評議員会にはいつも多数の参加があり、積極的に関わっていただけている。	引き続き保護者(PTA)および地域、同窓会との円滑な関係を維持し、教育諸活動において多面的な協力を得られるようにする。
	②校舎・器具・備品等の丁寧な取扱を意識し、公共物を大切に使用することや整頓することの意識を高揚・定着させる。	・清掃活動や係活動において、その意識を持たせる。	3	先生方の清掃に対する熱意に影響を受ける部分もあるが、生徒たちはよく日々の清掃活動に取り組んでいる。少し教室のカーテンが汚れているクラスがあるのが気になる。	引き続き校舎・器具・備品等の丁寧な取扱を意識し、公共物を大切に使用することや整頓することの意識を高揚・定着させる。

2 学科

4:よくできた 3:まあまあできた 2:あまりできなかった 1:できなかった 2:あまりできなかった 1:できなかった

学科名	実践目標	具体的な取り組み方法	評価	1年間の反省・課題	次年度の具体的な取り組み目標
商業	専門高校としての特色を出し、社会人・学生として恥ずかしくない人材を育てる。	・ビジネスマナーの向上。	3	志度高祭での「志度高デパート」や産業教育フェア、鴨庄祭りなどで出店し、商品をすべて完売させるなど、販売実習で成果をあげた。	6年度に引き続き、「志度高デパート」や産業教育フェアなどに出店し、販売実習を充実させる。また、インテュシブを実施し、ビジネスマナーの向上に努める。
		・検定合格率の向上と高度資格の取得。	3	全体的には、例年通りの合格率であったが、全商簿記実務検定の1級・会計の合格率はあまり芳しくなかった。	6年度の2年生は、検定取得率がかなり高いので、全商3種目以上合格者を10名以上出した。
		・進学先や就職先の充実。	3	ここ数年、就職は好調で、概ね希望通りの会社へ就職が内定している。 進学については、安易に進学先を選択する傾向にあるのが残念である。	今年度も進路決定者は100%だが、次年度は資格取得を生かしたりして、難易度の高い進路を目標にさせたい。特に、ここ数年合格者を出していない国公立大学合格に向けて指導していきたい。

学科名	実践目標	具体的な取り組み方法	評価	前期の反省・課題	次年度の具体的な取り組み目標
電子機械	自らの進路目標を設定し、積極的かつ体系的に検定・資格試験取得に取り組むことを通じて、技術・技能の向上と正しい職業観・人生観を育てる。 知識・技能の基礎・基本を確実に身につけ、卒業後は地域産業界の中心となり活躍できる、人材を育成する。	・科目間の横断的学習により、専門的知識・技能の基礎基本を充実させる。	3	科目間の横断的学習の機会を捉え、実習と座学、専門科目間の授業、既に学んだ知識を関連付けた授業を行っている。その結果、興味が深まり積極的に学習したり、資格や検定に挑戦したりする生徒も増えている。一方で、知識が蓄えられておらず、上手く関連付けられない生徒もいる。生徒の理解力の差を埋め、専門的知識・技能の基礎基本を身に付けさせるために、ICT機器の活用、様々な表現を用いた説明、反復等、工夫を凝らした授業に努めた。科目間の横断的学習により知識・技能を定着させていくことは重要なので、機会を捉えて継続し	基礎基本となる知識や技能の習得は必須であるが、これらを幅広く生かすために、科目間の連携を深めていきたい。そのために、科目内で、関連する他科目の知識を引用しての説明や問いかけの機会を増やす。実習ではものづくりをベースに作業をしているため、実践で知識を生かせられるよう機会を捉えて定着を図りたい。
		・検定・資格取得に自主的かつ積極的に取り組む。	3	全員受験の技能検定において合格率は高く保てており、技能検定においては、受験者数が増加傾向となっている。その理由に、しっかりと指導に時間をかけたこと、そして授業で学んだ内容に関する職種に興味を持ち、積極的に申し込む生徒が増えたことがある。尚且つ指導に対しても積極的に取り組んでいる。さらに合格率を高めることを目指したい。	資格取得をした生徒は、次学年の実習でさらに技能を高め、取り組みの成果を実感するとともに、難易度の高い資格や必要な資格に挑戦してもらいたい。資格取得が自分のキャリアプランに生かされるべきであり、そうなるよう働きかけていく。授業での経験が受験希望のきっかけとなっているので、座学や実習を通して生徒に興味・関心を持ってもらえるよう指導を続けていく。
		・ものづくりを通して、技術・技能の向上と、思考力・発想力を養う。	3	実習では基礎となる技術・技能の習得を要素作業や即売品につながる部品の製作を通して行っている。課題研究では、テーマは違えど、作品デザインや加工方法、作業工程、プログラム等を生徒に考えさせ製作させており、興味を持って失敗しながらも試行錯誤し、取り組んでいる。しかし、生徒が授業時間内に基本技術・技能を定着させることができず、同一実習において学年進行とともに高度化させる狙いが円滑に進行できなかった。安全面も考慮し、繰り返しの学習となるが、前年度に立ち戻り、基礎基本の充実を図っていく。また、考えながら取り組み、試行錯誤しながら工夫して技術・技能を向上させようとする姿勢はまだまだ乏しいので、失敗より挑戦しないことを指導していく。	一年次、基礎となる技術・技能の習得のため、要素作業を繰り返す行う。二年次、より高精度な加工や高度化された加工法を学ぶ。三年次、作品製作を通し加工方法や工程を考える力を身に付けさせるとともに、自ら考え、問題解決する姿勢を身に付ける。段階的な学習が円滑に進むよう生徒に限られた時間で身に付けさせられる工夫を考えたい。

学科名	実践目標	具体的な取り組み方法	評価	前期の反省・課題	次年度の具体的な取り組み目標
情報科学	高校生として社会に対応できる人間教育を行い、技術・技能の向上に積極的に取り組む生徒を育てる。	・各学年に応じた課題や実習にICT機器を活用して組みませ、生徒が主体的に取り組む姿勢を育成する。	3	昨年度と比べるとICT機器の活用は進んでいる。しかし、ICT機器の活用が教育において万能とは思えない。生徒が主体的に授業に取り組むために、ICT機器の良い活用方法を用いて授業のやり方を再度考える必要があると感じる。	各学年に応じた課題や実習にICT機器を効果的に活用し、生徒が主体的に取り組む姿勢を育成する。
		・基礎的、基本的な知識や技術・技能を習得させ、資格や検定等にチャレンジさせる。	4	復習や説明に時間をかけて「分かる授業」を心掛けて取り組んでいる。また、授業の中で資格等を紹介し、国家資格などの取得を促している。課外での学習を積極的に行い、昨年度よりも多くの合格者を出した。	基礎的、基本的な知識や技術・技能を習得させ、資格や検定等にチャレンジさせる。
		・就職・進学指導の充実。	3	インターンシップや専門科目の授業を通して、早い時期から自分の進路について考えるように意識させている。進路実現のために、情報提供などのサポートとともに、生徒自身が普段の努力の重要性に気づくことが大事だと思う。	進路意識を高め、学校生活に前向きに取り組む生徒を育成する。

3 学年団 4:よくできた 3:まあまあできた 2:あまりできなかった 1:できなかった 2:あまりできなかった 1:できなかった

学年団	実践目標	具体的な取り組み方法	評価	1年間の反省・課題	次年度の具体的な取り組み目標
3 年 団	進路の実現	・基礎学力の充実をはかる。	3	「SPI・一般常識」等の活用により、ある程度の基礎学力は付けられた。	毎朝の学習時間や休み時間などの隙間時間を活用し、一般教養対策問題集を使って基礎的な知識を繰り返しつけていくよう指導を継続していく。
		・的確な情報提供に努める。	4	担任の先生方と進路指導部、各科の先生方の細やかな連携によってスムーズに生徒に情報を提供できた。	担任、進路指導部、各科の先生方など連絡を密にし、情報を共有することで生徒に的確な情報を提供する。
		・面接指導を充実させる。	4	担任の先生方を中心に、休み時間や放課後等の面接練習は活発だった。	面接指導の担当教員を決めたり、ポートフォリオに面接指導履歴を残したりするなど進捗状況を可視化する。
		・進路決定後の生活指導を充実させる。	3	担任の先生方を中心に、生徒指導部や他の先生方とも連携しながらしっかり指導していきたい。	生徒指導・家庭とも連携をとりながら粘り強く指導していく。
2 年 団	①良好な人間関係の構築	・人を尊重し、思いやる心を育てる。	3	概ね良好だが、人間関係のトラブルも多少はあった。	基礎学力の充実
	②落ち着いたある学校生活	・挨拶・服装・清掃・時間厳守の徹底など規範意識を持たせる。	3	概ね良好だが、学校を欠席する生徒が多いと感じる。	生徒の希望や適性に合った進路指導
	③学力向上と進路実現への啓発	・検定取得等の高い目標を持ち、計画的に学習する態度を養う。また、新しいことにチャレンジするよう呼びかける。	3	様々な校外活動や検定に挑戦している生徒がいる一方で、あまりチャレンジできていない生徒もいる。	落ち着いた生活習慣(特に2学期以降)
1 年 団	①素直な心	・先生や友人、他からの評価を受け入れ自己を理解し改善に努める態度を養う。	3	自己評価が高い生徒が多く、他者からの評価に納得しない場合が多いが、素直に認め努力する生徒もいるので全体として少しずつ良くなってきた。しかし、人間関係のトラブルに発展するケースも見られた。	客観的に自己を評価できるように、定期的な振り返りをさせる。 他責にせず自己反省を行い、他者と協調する観点で次の行動の計画まで考えさせる。面談、懇談等を通じてフィードバックを行う。
	②事前行動	・前もって準備をしてゆとりを持って行動するように習慣づける。提出物等も期限内に内容も含めゆとりをもって提出するようにさせる。	3	準備をきちんと行い予習、予定行動をする生徒が少数ではあるがいる。一方ほとんどの生徒が目の中のことをこなすのに精一杯であり、提出物も遅れがちである。	その日のことはその日のうちにやりきるように指導強化する。 提出物の期限を守るようにチェックリストの作成を生徒自らの手で行わせる等の環境を提供する。面談、懇談等を通じてフィードバックを行う。
	③あらゆる場面で何をやるか何のためにやるかどの様に取り組むかを自ら考えて主体となって行動する。	・進路目標を持ち、それを実現するために、何に取り組めば良いかを自ら考え調査したり、助言を求めたりして積極的、計画的に実行する力を身につけさせる。	2	進路に関してはほとんどの生徒が決定を先延ばしにしているが、一部の生徒の中には明確な将来を見据えそれに向かって学習している生徒もいる。企業説明会や進路ガイダンスを通じて意識が芽生える生徒も見られる。	種を問わず、資格取得に向けて意欲的に努力する態度をさらに向上させる。明確な将来目標に繋がるように指導する。